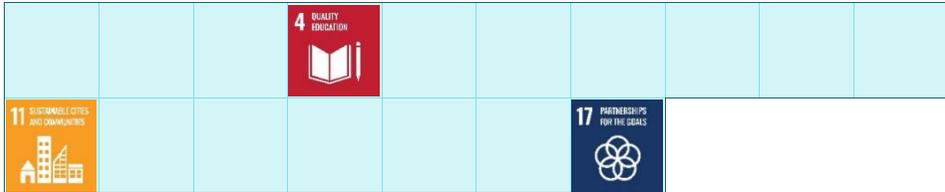


企業名	田中手帳株式会社				
役職・代表者	代表取締役 田中尚寛				
本社所在地	大阪府大阪市住之江区平林南 1-2-52				
電話番号	06-6681-8648	設立年	1970年	従業員数	63名
URL	https://www.tanakatechou.co.jp/				

## 該当するSDGsのゴール



## 自社紹介及びSDGs取組の概要

当社は、大阪市住之江区に本社を置く手帳製本に特化した製本会社である。防災の分野でもスマートフォン等のアプリケーションは日々進化しているが、災害発生時の通信障害、フェイクニュースなど、人災の発生も懸念されている。また、認知機能が低下した人の罹災率の高さについても報告されている。そこで、当社は災害発生時のデジタルの脆弱性に着目し、「アナログのコミュニケーションによるリスクマネジメント」として、「レジリエントな社会基盤の構築」をめざし「救助用・防災用コミュニケーションブック」の開発・製作を行った。このコミュニケーションブックは、救助者と要救護者が保持し、災害時のコミュニケーションがスムーズに行われるようにしたものである。高耐水性、高耐久性をもたせ、開きやすいインデックス加工を付与、またピクトグラムを多用し内容が直感的に伝わるものとし、要救護者のパニックを抑える工夫も施している。

## 取組のきっかけ、背景

- 急速に小さくなる手帳の市場の中、防災セミナーを聴講し、防災の原点は、先人たちが残した記録や思いを風化させることなく備えることだと知る。
- 大震災等の統計により、被災の体験、思い、予定を書き留め、「過去・現在・未来」を把握しようとする人の回復力が早いことを知る。
- これこそ手帳の本質だと感じ災害に対し防災分野での手帳活用の模索を始めた。

## 取組の進め方

- コミュニケーションブックのダミーを展示し、聴覚障がい者の支援者から一緒にコミュニケーションブックを作りたい旨の申し出があった。すぐに聴覚障がい者、聾学校教諭、手話通訳者等と意見交換が始まり、指針ができた。
- 関係者とブック開発の「プロジェクトチーム」を形成した。

## 具体的な取組、製品・サービス

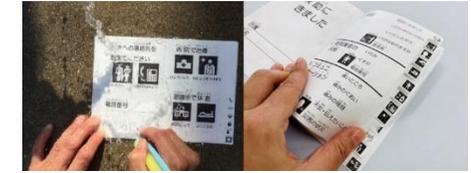
- レジリエントな社会基盤の構築として、情報弱者に対する「救助用・防災用コミュニケーションブック」を製作した。
- 聴覚障がい者、聾学校教諭、手話通訳者、言語聴覚士との意見交換で「スマートフォンは聴覚障がい者の進出になくはない存在になっているが、災害時のデジタル機器の機能不全は彼らの命を奪いかねない」との指針が出る。
- 聴覚障がい者支援関連からの繋がりに始まり、情報保障の研究者、福祉医療専門医師、京都府消防局防災ネットワークと本コミュニケーションブックの開発・制作の「プロジェクトチーム」を形成した。
- 本ブックは、「タイベック」という不織布を採用。高耐水性と高耐久性を有している。180度または360度開いても戻らない高広開性を有した「中ミシン製本」を採用。目的のページをすばやく開くことができ、冊子が水没した際にもページとページの間に空気を送り込み開きやすくするインデックス加工を付与することにより高操作性を持たせた。
- 本ブックは、情報保障の要素が凝縮されている。文字の使用を極力抑え、ピクトグラムや絵を多用し、直感的に伝わる工夫が多く採用されている。認知機能が低下している人は災害時にパニックを起こしやすいと



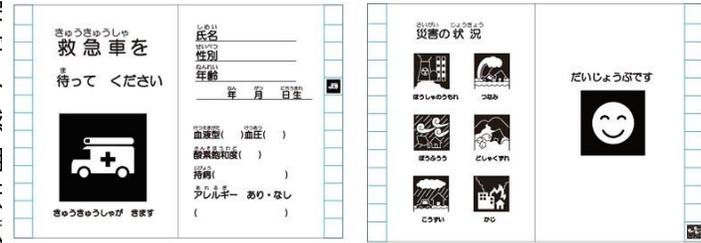
2種類のコミュニケーションブック



高広開性                      高耐久性



高耐水性                      インデックス加工



救助用記入欄                      ピクトグラム

の事実から、救助者の名前を大きく記入する欄を設け、「笑」を意味するピクトグラムが数多く登場するなど、要救助者の混乱を抑え、自主的な避難への協力を促すことによる減災効果を狙った仕組みが多く含まれている。

## 取組んだ成果、効果（取組前後の変化）

- コミュニケーションブックの販売を始めている。コロナ禍終息後には、本コミュニケーションブックを使った「避難訓練」「救助訓練」を行い、評価する予定。

## 今後の予定、展望

- 上記評価を踏まえ、ハード・ソフトともブラシュアップをしていく。